

第2回しまもと・にぎわい・地域活性化交流会2016 ※累計8回目

議事録



平成28年9月27日(火)14:00~16:00 in 島本町商工会

岩橋マネジメントサービス 中小企業診断士 岩橋 亮

当日の流れ

1. はじめに

2. しまもと・にぎわい・ねっとわーく推進委員会・会長より

3. 【第1部】ホンネの困りごとをみんなで解決するグループディスカッション

～ 休憩(10分程度)～

4. 【第2部】地方創生加速加速化交付金事業について

【第1部】は過去～現在、【第2部】は未来

グループディスカッション議事録①

■ しまもと・にぎわい・ねっと

- コアグループだけでしかお話していない
- もう少し大きくいろんな人が話をできる機会があっても良い
- あまり前に進んでいない。成果が見えにくい。一方で、進んでいるということを見せるべき
- この交流会が団体間連携の母体にならないといけない
- 大きな市町村の真似をして失敗してきたが、身の丈に応じたものを探し、同じ方向性を共有する
- あいさつ大事。同じ目的でやるなら関係を良くした方がいい

■ インターネット・フェイスブックページの活用

- 進捗の把握が難しい
- フェイスブックページの内容とか講義している
- この会がどれくらい成果があったのか。可視化したい
- フェイスブックページの統計等、分析等があれば成果につながる

グループディスカッション議事録②

■ 情報発信

● 共通

- ✓ 新しいマンションのPR不足
- ✓ 島本町のPR不足
- ✓ 行政の大々的PRも良いが、口コミで広げていきたい
- ✓ サントリー「**水と共に生きる**」というコンセプト

● 町外

- ✓ **水、自然**をPRしていきたい
- ✓ 町外へのPR不足。人口が増加も加減もせず。外からの人をいかに来ていただくか
- ✓ 島本町の環境の良さ、地域の利便性を発信していない
- ✓ 島本町は民度が高い。**(人のぬくもり・やさしさ)**
- ✓ 島本の利点は、電車の駅に歩いていけるところ。京都・大阪も通勤便利
- ✓ TVの影響が大きいと感じる

● 町内

- ✓ 町内の住民へのPR。紙媒体だけでなく、**SNS、アプリ、QRコード**。簡単に読み取って情報をとりやすくする。掲示板にも張っていく。スマホ世代多い。内外へのPR
- ✓ 大人になってから島本に住んだ人も、良い町だし愛着が沸く。島本町のイメージをどうやって作っていくか、大事
- ✓ 島本で幼少期。横のつながりがある
- ✓ ベッドタウンとして住んでいると地域とつながらない。若い人の横のつながり

グループ別意見交換会議事録③

■ 事業

- 立地条件が良い。何か自然を活かした事業をすべきでは
- 島本は人口が少ない。固定客確保が重要
- 娯楽少ない。子どもが高槻へ行ってしまう

■ 農業

- ファミリー農園は利益につながりにくい。事業者の利益をたくさん考えていくべき。農地の管理。農地をビジネスにできないか
- 草の手入れが大変だが、それも都市の人には魅力的なツール
- 例えば、農業者が農業生産法人を起ち上げて一括管理。事務・契約募集をする
- 建設業、宅建業に事務委託。基盤を整備し、差別化する。価格を代えて**ビジネスに**
- 馬場さん、朝市部会。歴史資料館。29年半期から駅前開発で中止に。尺代あたりで空き地がないか

■ 空き家活用

- マンションがたつ一方で空き家が増えている。空き家をどう使うか
- 松下建設。**民泊**をされている。どのようにPRしたら良いか。観光案内へどうつなげるか
町内でおもてなしをするための連携
- 空き家をどう使うか。にしむら亭をリニューアルなど。**サントリーの客を呼び込んだら面白くないじゃないか**
- 松下建設で空き家の調査をしている。利活用を進めている

グループ別意見交換会議事録④

■ 尺代漁協

- 島本でも尺代で釣りをやっていることを知らない人がいる
- 尺代漁協。釣り体験の教室。1小から4小まで尺代で。釣って焼いて食べる
- 収益はトントンか赤字。しかし、大変喜ばれた。リピーターとして家族で来られるように
- 高齢化に伴う釣り場の運営に課題
- バーベキューの臭いに住民の反対がある

グループ別意見交換会議事録⑤

■ イベント

- イルミネーション実行委員。1つは島本町向け。1つは町外。町内は総延長は維持し、中身を濃く。前はオープニングに大根焚き。期間にイベントをして町民参加型事業。具体的な形は今後の課題
- 商工会青年部。しまもと夏祭り。音楽フェスティバル。2本毎年実施。人材不足。協賛金の見解。金銭的にも厳しいのが現状。4月にお願いに行く。6月に夏祭り。「また来たんか。」フェスが3回目。イベントはするが、金銭的な面が苦しい
- 町内イベントは一部の人に労力の負担がかかっている。NPOなどの組織の受け皿が必要。商売(商工会)をしている中での負担が多い
- ボランティアは当日の手伝いだけでも助かる
- 団体の相互の協力で持ちつ持たれつでいく
- 祭りで知り合った方、同級生が子どもとともに協力してくれる。活動できる場の発信・チラシ作り
- ボランティアの不足が課題
- イベントの担い手不足。裾野が広がらない
- 退職後、なかなかコミュニティに入りにくい

グループ別意見交換会議事録⑥

■ 観光

- 読売テレビで取材があった。名水の取材はあるが、島本の特徴がない
- 島本の中で、水以外の特産品をつかって外に発信できれば
- そこに行けば、島本らしさが見つかる空間づくり。(特産品)
- 離宮の水以外に名物を食べられる店の情報を共有する
- 島本のハードをつくるのではなく、おもてなし。ソフトの部分を考えていく。外に発信していく
- サントリーの見学者。お客さんを道の駅ではないが、スペースを設けて島本の特産品を売ったり、PRしていく
- 道の駅は供給量が追いつかないのでは
- 高齢化。案内ボランティアの減少
- 担い手不足については漁業・農業・産業振興の組織づくりが必要
- 島本の人が島本の良さを知ることから始める
- 道の駅など、バスが停車するところがあればタケノコ・水・しいたけなどを売ったり、尺代のあまごを焼いて売ったりしたい
- 京都・大阪の観光案内ボランティアとつながっておいてパンフレットを揃えては？
- 島本は観光はB級観光。だけど、2～3度来日している外国人などは、地域に踏み込んだ観光がしたい人がいる
- 観光客の移動手段も考えてあげないといけない